

日本共産党上越市議団などが大槌町で無料青空市 コメ、味噌などの支援物資、わずか15分でゼロに

日本共産党上越地区委員会と上越市議団は5月17日、岩手県大槌町桜木町の西大通りで無料青空市を開催しました。現地に出向いたのは、私と上野議員を入れて4人です。

私たちが青空市に持ち込んだ支援物資は、お米約300キロ、讃岐うどん225袋、洗剤アタック130箱、台所洗剤フアミリーフレッシュ120本、ティッシュペーパー5個入り130セット、婦人服50着、スニーカー25足などです。いずれも上越市民のみなさんからお寄せいただいたものです。

私たちは前日の午後、桜木町の被災者の避難先であり、ボランティアセンターとなっている桜木町保健福祉会館前で無料青空市の案内チラシを配布しました。そのこともあって、会場と

なった西大通りには青空市の開始1時間前から並ぶ人が出て、午前10時には長い列ができました。

青空市を開く直前、私と上野議員がハンドマイクを使って挨拶しました。私からは、「中越沖地震の際は、岩手県のみなさんをはじめ全国のみなさんから励ましていただきました。きょうはその恩返しの意味も込めて、上越市民から寄せていただいた支援物資をお届けにあがりましました。頑張ってください」とのべました。挨拶が終わると、拍手が起きました。うれしかったですね。

青空市は午前10時から2時間を予定して行きました。しかし、開始からわずか15分で品切れとなりました。集まった人は180人くらい

でした。一番人気があつたのはお米です。うどん、味噌、洗剤、スニーカーも人気がありました。これらの品物を手にした人たちからは、「助かります」「ありがとうございます」「言葉がたくさんいただきました」。

日本共産党大槌町議の阿部佑吉さんによると、人口比率で見ると、同町は岩手県内の自治体の中で地震・津波で亡くなった人が最



桜木町での青空市場



大槌町役場と消防車



【サワオグルマ】キク科。花期は5月～6月。田んぼの近く、用水路の近くなど、少し湿り気のある場所に咲きます。柿崎区東横山、吉川区伯母ヶ沢などで見ることができます。(14日撮影)

も多いということ。桜木町にはこの日、清掃ボランティアや建築ボランティアなどの人たちも入っていました。悲しみを乗り越えて、ぜひ頑張ってください。日本共産党上越地区委員会と上越市議団では、今回の支援活動の経験を生かし、第2陣、第3陣と現地に入り、支援物資届け、青空市のご支援をお願いいたします。

シリーズ 上越市内の橋

第65回

新西之脇橋



「新西之脇橋」と書いて「しんにしのわきはし」と読みます。市道山谷旭町線、食房なかむらのすぐそばにあります。

柿崎区内の橋の多くは米山の見えるところにあります。すが、この橋もそのひとつ。田んぼと高速道路があり、そのバックに米山がどっしりとすわっています。

橋長は約19メートル。1999年(平成11年3月)竣工です。

春よ来い 第一五四回 バトンタッチ

柏崎の義父の四十九日法要が終わって、今度は父の三回忌です。父については昨年が一周忌で、大勢の親族のみなさんから集まってもらいました。二年続きで集まってもらうのはたいへんです。今回は家族と近くに住む弟だけの法要にしました。

法要の日は五月晴れ、じつに清々しい日となりました。わが家がお世話になっていのお寺は山直海の小高いところにあります。ご住職をお迎えに行く途中、目に入る国田や大下などの山々はやわらかな新緑に覆われ、美しく輝いていました。

今回の法要で一番印象に残ったのはご住職が話された法話でした。ベストセラー、『納棺夫日記』で有名な作家であり、詩人でもある青木新門さんの講演にふれ、生死について語ってくださったのです。

人の生と死はつながっている。人の死は亡くなる人からその人の子どもへといのちをバトンタッチすること。そして一周忌や三回忌というのは、いのちを引き継いでいるということを確認する場である、というお話でした。短い話ではありませんが、この日は法話の内容をいろんな場面で思い出す一日となりました。

お経、法話が終わって、家の外へ出た時、ご住職はわが家の庭にある一本の木を指差し、「あれでしたかね、例の木は……」と尋ねられました。「例の木」というのはベニコブシのことです。父はこの木の花が大好きで、父が死んだ日は満開でした。その日のことを私は「春よ来い」で書きましたが、ご住職はそれを憶えていて下さったのです。

お斎の時、最初は、源地区に咲く三本の大きなしだれ桜の歴史や専徳寺の前庭、裏庭に咲く桜の木のことが話の中心となりました。誰かが、「お斎に出されたご馳走を食べきれない」と話したことを契機に、話題は次第に父のことに移っていききました。

入院していた当時、父は最初の週間ほどのぞき、ずっと流動食でした。痰が詰まりやすく、しゃべる言葉もほとんど聞き取れませんでした。自分の思っていることを一生懸命伝えようとする父の前に、聞いていてもわからなくて、こちらで予想できることを「○○かね」「じゃ、△△か」と一つひとつあげて聞いたものです。

それで解決しないと、お互いにイライラしてきます。ある日、もう聞くのをやめようかと思うくらい聞いて、やめようとした瞬間、父が大きな声を出しました。その言葉は「たばこ！」でした。父がほとんどしゃべれなくなってから、完全な言葉でしゃべったのは、この一回きりでした。私が父のまねをして、「たばこ！」と叫ぶと、みんなが思い出したのでしよう、大笑いしました。

父のしゃべる言葉はほとんどわからなかったと書きましたが、ひとつだけ、誰もがわかる言葉がありました。見舞ってくれた人が病室から帰る時に父が発した言葉です。「あが」という風に聞えましたが、明らかに「ありがとう」という言葉でした。この「あが」とは親戚の人たちや友人のみなさんにだけでなく、家族にたいしても言っていたねと、みんなが話しました。

法要でご住職が言われた「いのちのバトンタッチを確認する」というのは、亡くなった人のことを思い出し、残った者が頑張って生きていく気持ちになることだと思えます。今回の三回忌では、父のことを普段よりもたくさん思い出し、みんなで話題にしました。私たちがこうして思い出しているうちは、父は私たちの心のなかに生き続けます。

頸城区	11件	事業費688万円	配分額の85.9%
大島区	12件	事業費551万円	配分額の98.1%
浦川原区	7件	事業費988万円	配分額の154.4%
安塚区	10件	事業費611万円	配分額の103.6%
牧区	21件	事業費776万円	配分額の136.2%

中山間地域振興基本条例

6月議会提出に向け、準備着々

市議会中山間地対策特別委員会が19日開かれました。この日は、中山間地域振興基本条例（案）のパブリックコメント、板倉区での意見を聴く会で出された意見についての対応と回答案の検討が行われました。

パブリックコメントでは、「中山間地域が有する公益的機能の維持をする記述を」など19項目について意見が、また板倉区での意見を聴く会では7項目の意見が寄せられました。

特別委員会で検討した結果、「一部反映する」「反映しない意見」「その他の意見」に分類し、意見をお寄せいただいたみなさんに回答することにしました。

これらについては、23日の全議員集会で報告し、議会としての最終的な対応、回答を決めることとなります。

この調子でいくと、6月議会で中山間地域振興基本条例案が提出され、議決されることとなります。特別委員会は、条例制定後、個別施策の検討に入ります。

長野県北部地震に伴う応急復旧で 8744万円を専決処分

村山秀幸上越市長は17日、長野県北部地震で被災した農道、林道、農業用施設などの災害復旧費、約8744万円を専決処分しました。

歳出の主なものは、農地、農業用施設災害復旧費3849万円、林業用施設災害復旧費3774万円、道路橋梁災害復旧費1120万円です。

写真は大島区菖蒲の農道災害現場。4月27日撮影。



地域活動支援事業、提案は314件に

今年度の地域活動支援事業の提案状況がこのほど明らかにされました。市内全区の提案件数は314件で、事業費は総額で2億2189万円になります。市からの配分額にたいする事業費の割合は95.2%でした。

主な区の状況をお伝えしますと、次の通りです。

吉川区	9件	事業費653万円	配分額の100.7%
柿崎区	13件	事業費892万円	配分額の98.8%
大潟区	9件	事業費519万円	配分額の60.6%